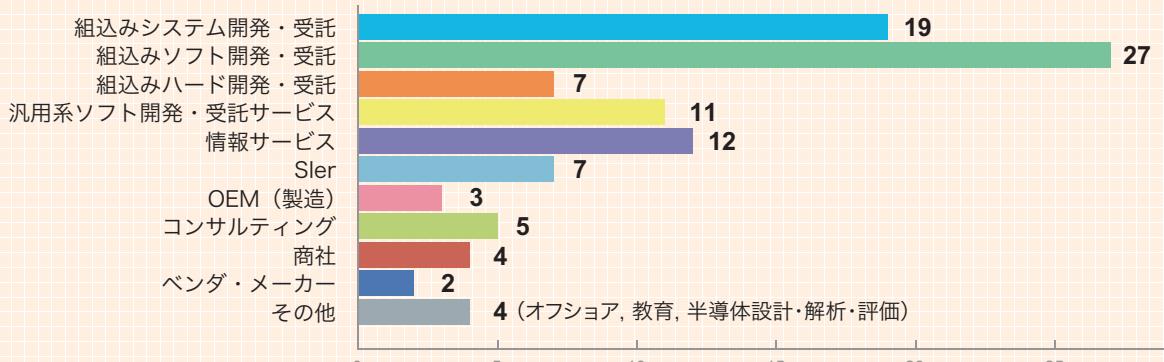


業界2021年の見通し

新型コロナウイルスの猛威にさらされた2020年が明けた。世界的に経済が停滞、働き方も激変するなど多くの企業が逆風を受け続けた。2021年もまだまだ不透明感が強く、果たして追い風に変わるきっかけは生まれるか。「景気動向アンケート調査」から会員企業の現状、業界予測を展望する。

表1 回答企業の主たる事業（複数回答）



Q. 2020年の貴社の業績はいかがでしたか？

「悪かった」「非常に悪かった」の合計が半数を超える65%を占めた。新型コロナウイルスの影響が大きいといえるが、あまり影響がなかったと思われる「普通」「良かった」との回答が3分の1の会員からあった。

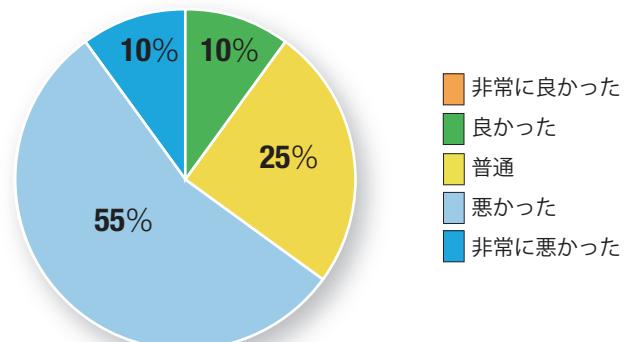


図1 2020年の貴社の業績はいかがでしたか？

Q. 前年と比較して2020年の業績は？

「悪かった」が前回の20%から倍以上の47%に、「非常に悪かった」も5%から12%に増える結果となった。「良かった」とする回答は12%となっている。

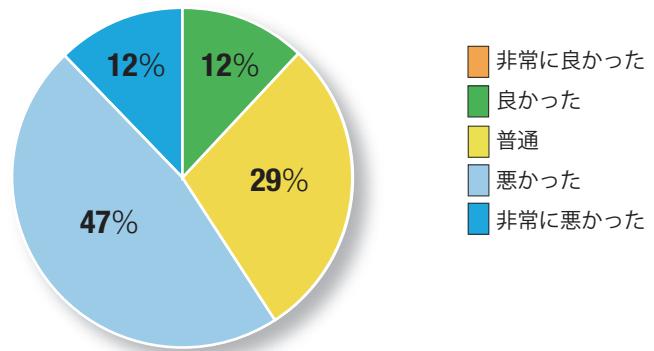


図2 前年と比較して2020年の業績は？

Q. 2020年業績の伸び率は？

業績の低下を示すマイナス成長が半数を超える64%となった。プラス成長は20%以上の伸び率を示した会員はないものの、26%がプラスとの回答があった。

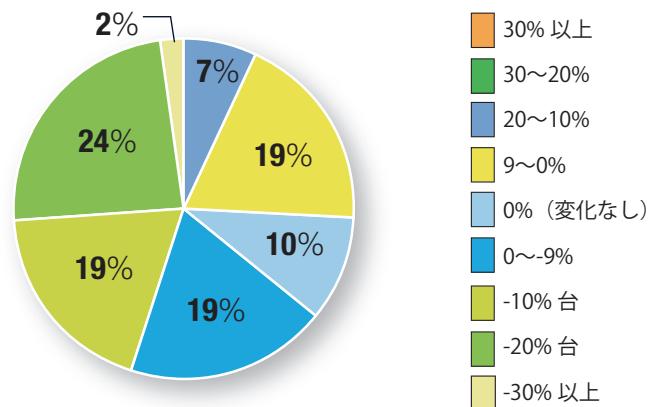


図3 2020年業績の伸び率は？

Q. 業績に貢献した部門は？

回答の多い順は前回同様ながら、割合は「製作・製造」が36%から24%に、「研究・開発」が31%から22%に減少。「営業」が15%から20%に伸長した。「その他」にはオフショア、委託事業、自社製品開発などの回答があった。

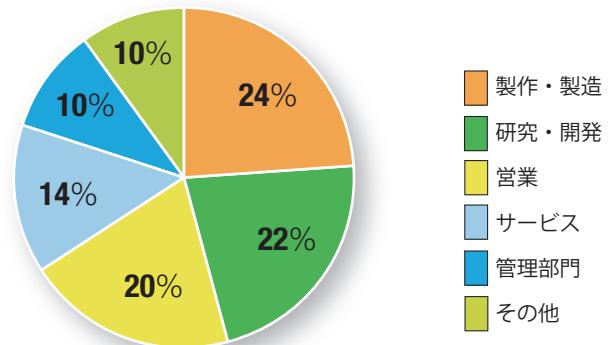


図4 業績に貢献した部門は？

Q. 今後補強したい部門は？

「研究・開発」の回答が35%から41%に伸長。前回では2%差とその差が徐々に縮まってきていた「製作・製造」と「サービス」がともに11%で同率となった。

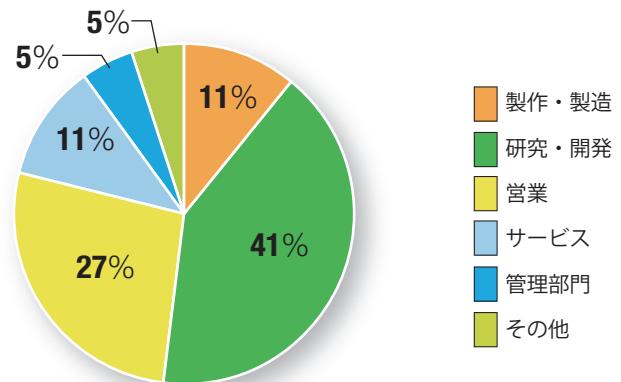


図5 今後補強したい部門は？

Q. 新型コロナの影響として、現在どの業務に影響が出ていますか？

昨年のコロナ禍を受けて追加した設問。回答が集中したのは「営業」「開発・設計」で、全体的に開発案件が大きく減少したことが見て取れる。

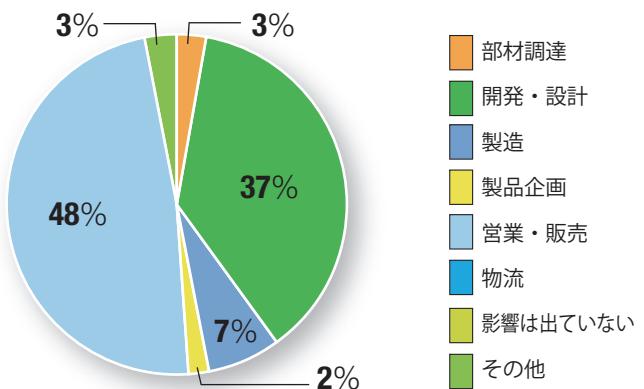


図6 新型コロナの影響として、現在どの業務に影響が出ていますか？

Q. 新型コロナ以前の水準に業績が戻る時期は？

「1年～2年未満」の回答が約6割を占め、圧倒的に集中した。「2年以降」「戻るのは難しい」との回答を合わせるとおよそ8割の会員が復調には相応の時間が必要との見方をしているようだ。

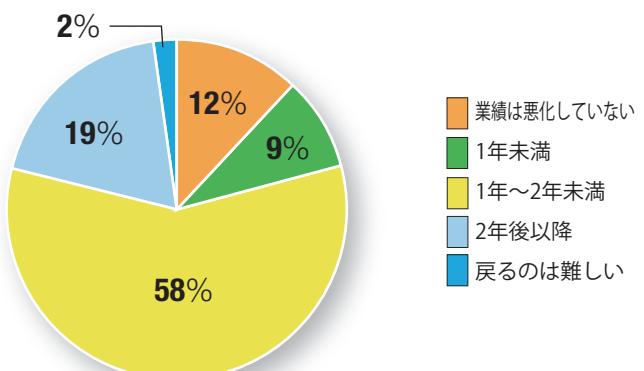


図7 新型コロナ以前の水準に業績が戻る時期は？

Q. 技術者の雇用状況は？

前回は回答がなく0だった「過剰」に回答があったのは、減少した案件数との割合に依るものか？前回69%と回答が集中した「不足(積極的に採用していく)」が最も回答を集めながら40%に減少、逆に「適正」が25%から38%に増えている。

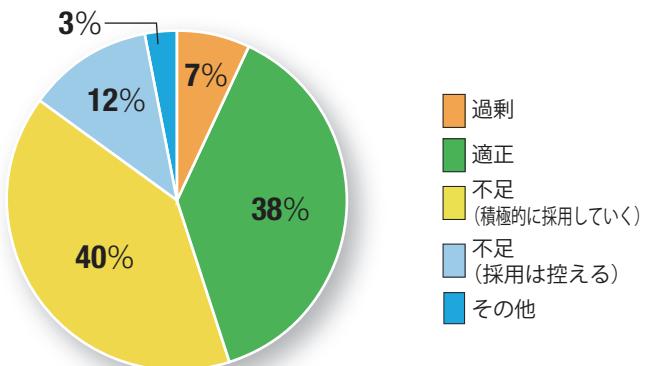


図8 技術者の雇用状況は？

Q. 2021年組込みシステム関係の景況は？

業界の見立てとして「悪い」「非常に悪い」6割近くを占める結果となった。前回調査では景況の低下を予測する回答が増えていたなか、5Gや車載系、ロボット分野の堅調さに期待する意見もあがったが、新型コロナウイルスの影響もあり実際には低迷したことから、今年もその影響を懸念している印象だ(回答理由は次ページに掲載)。

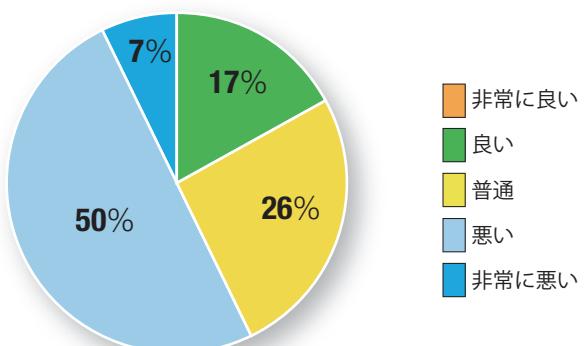


図9 2021年組込みシステム関係の景況は？

Q. 景況の見立て、その理由は？

■「良い」とする理由

- 顧客開発量が増える
- DX進展、ICT機器・サービス需要増加
- 今後の技術革新が受注増に影響
- 日本のIT後進性が広く知られIT投資が増える

■「普通」とする理由

- まだまだ急回復しない
- 製造業に業績回復の兆しが見える
- 見通しが不透明、過去の経験から帰納できない

●開発投資を行う会社が出てきている

- 自動車関連の業績が持ち直している
- 大手製造業の回復が見込める
- 情報サービス産業自体の需要に致命的なダメージは及んでいない

■「悪い」とする理由

- 新規営業ができていない影響
- 世界経済の下降
- 車載、産業機器の開発予算の減少
- 日本の基幹産業である車載の落ち込み
- 受注量の低下、人材の有効活用の低下

●顧客の投資意欲が組込み系に向いていない

- コロナの影響が継続、設備投資の抑制
- 公共系への投資予算が縮小
- 顧客の生産・販売状況や開発投資状況が不透明

●投資抑制の風潮、発注量が減少

■「非常に悪い」とする理由

- 製造業が悪化のため
- 新規開発案件の急激な減少
- 新規製品が見当たらない

Q. 2021年の貴社の業績は？

この設問では「普通」と「悪い」に回答が集中。それぞれ半数近くの回答数となった。「良い」とする回答もあったものの、現時点での見通しの不透明さが反映された結果というところか。

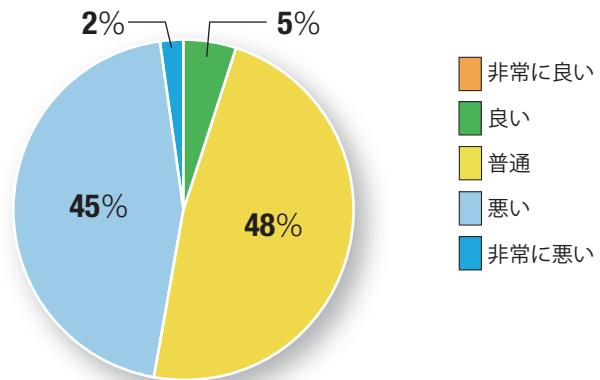


図10 2021年の貴社の業績は？

Q. 貴社が成長を期待する分野は？

5Gによる期待が高まる「情報通信・5G/ローカル5G」が前回に続き回答を集めたが、前回9%だった「医療、ヘルスケア」が同率となる15%を集め、期待の高さがうかがえる結果となった。

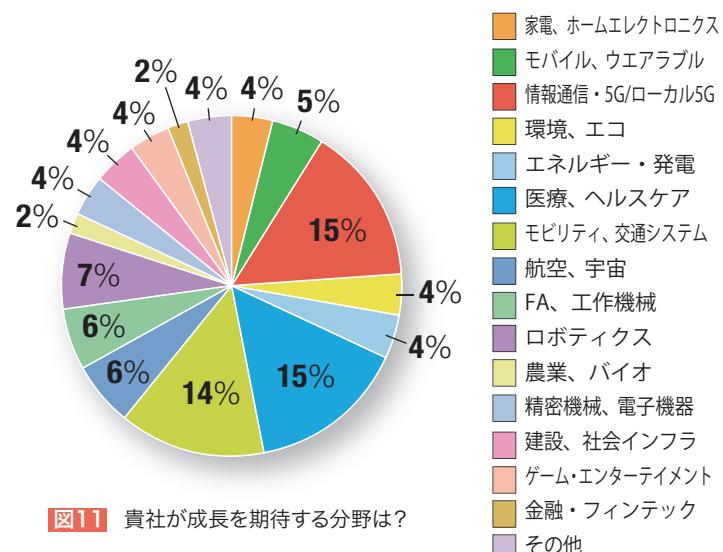


図11 貴社が成長を期待する分野は？

Q. 2021年貴社にとってのキーワードは?

多くが今年も厳しい一年と見るなか、自社にとってのキーワードは何か。キーテクノロジーや応用分野関連、自社の環境や意識改善などに分けて取り上げてみた。

■キーテクノロジー、応用分野関連

- 5G
- IoT
- 医療
- 遠隔
- オフィショア
- クラウド
- セキュリティ
- CPS(サイバーフィジカルシステム)
- スマートファクトリー
- DX(デジタルトランスフォーメーション)
- 中小企業のデジタル化
- 農業

■自社の環境改善・意識改善、新戦略

- 相手の立場に立って考える
- 新たな成長
- 我慢の年
- 景気回復
- 県内IT産業振興への貢献
- 自動運転検証ソフト(汎用)の開発と売り込み
- 社内人材のスキルアップと効率の見直し
- 受注回復
- 新技術・新市場の探究
- 成長分野への挑戦
- 創造性

- 地方展開
- Challenge Plus100
- 中国市場
- 提案型ソリューションビジネスの拡大
- 投資の継続と成長
- 内部から利益を生み出す
- 波にのまれない
- ニューノーマル社会
- 変革
- 唯一無二の存在

新型コロナ禍による甚大な影響を受けて、2020年の業績、2021年の見通しとも非常に厳しい。一方、こうした中でも今後の飛躍に向け、開発・設計を強化し、技術力で難局突破を図る組込み業界のたくましい姿も明らかになった。

もともと2020年の景況感は米中貿易摩擦もあって厳しいという認識だったが、新型コロナ禍が追い打ちをかけた。年初の予想では「良い」が28%で「普通」が55%だったのが、「普通」が25%で「悪かった」が55%と1ランク悪化した格好である。もっとも2020年6月に行った新型コロナウイルス緊急アンケート(Bulletin JASA vol.74)における業績予測と同レベルであり、経営者は業績をほぼ正確に見通していたことになる。

新型コロナの2021年の業績への影響は、ワクチン普及に対する期待はあるものの、2度目の緊急事

態宣言もあって予断を許さない。「現在どの業務に新型コロナの影響が出ているか」の問いに、37%が「開発・設計」と回答した。2020年6月時点では25%だったので、開発・設計に想定以上の影響が出ていることになる。これが今後の業績にボディブローのように効いてくる可能性がある。

しかし中長期的に見た場合、業界には追い風が吹いている。期待する分野としてトップに挙がった「5G/ローカル5G」は本格的な立ち上がりの時期を迎えている。MEC(モバイルエッジコンピューティング)や低遅延クラウドといった業界の得意分野との親和性も高く、今後の伸び代は大きい。期待度で15%と前年から急伸し「5G/ローカル5G」と肩を並べた「医療、ヘルスケア」は、新型コロナ禍における医療逼迫や健康志向の高まりを踏まえると、業界としてもぜひ貢献したいところだ。